

月報・日本から発信！

4月号の内容

「情報発信プラットフォーム」(3月)掲載の主要論文の要旨

実際の鯨ほど大きくなる必要のない捕鯨問題

石塚雅彦 (フォーリンプレスセンター評議員)

石塚氏は英語の論文(以下のリンク参照)において、捕鯨を止めよという国際的圧力の最中、捕鯨自体あまり意味を成さないにもかかわらず、日本は捕鯨活動に固執しており、妥協すべき時が来た、と述べている。捕鯨の慣行は、日本人にとって忘れられた存在である。捕鯨活動は日本人の毎日の生活に不可欠なものであるということは、もはや意味を成さない。しかし、西側諸国からこの動物を殺すこと自体に圧力がかかると、心の中では先鋒となりこれに反対しようとする。現実的な側面からして捕鯨活動はまったく重要性はないが、この西側からの批判に対しての感情的反感は、激しくなかなか治まらない。・・・
原文: Whaling Need not be Made into Giant Whale of an Issue
www.glocom.org/opinions/essays/20090301_whale_ishizuka/

米国のアジア政策における継続点と変革点

ラルフ・コッサ (CSIS パシフィック・フォーラム会長)

ヒラリー・クリントン国務長官の最近のアジア歴訪は、オバマ政権におけるアジア政策の継続点と変革点が強調されたといえる。一般的にみて、日本、韓国や中国などクリントン氏の北東アジアへの歴訪は継続点とみられ、インドネシアへの訪問は変革と捉えられる。彼女の最初の訪問先は、そうであるべきように東京であり、ブッシュ政権時にそうであったように(また彼女の夫である以前のクリントン政権時においても)米国のアジア政策の基礎であり、東アジアの安全保障における第一歩である日米の同盟関係の継続を強調した。・・・
原文: Continuity and Change: U.S. Asia Policy
www.glocom.org/opinions/essays/20090307_cossa_continuity/

米国とインドネシアの関係の新たな時代

アン・マリー・マーフィー (シートン・ホール大学助教)

ヒラリー・クリントン氏が国務長官として二番目にインドネシアを訪れたことは称賛に値する。インドネシアはおそらく世界で四番目に人口の多い国であり、民主主義では三番目に大きな国であり、世界で一番大きな共同体であるイスラム教徒の故郷でもあるが、同時にアメリカ人にはほとんど知られていない最も大切な国である。クリントン氏の訪問は、米国政府が拡大するインドネシアの影響力を認識し、未来の協調のための硬い基盤をつくるというメッセージを迅速にインドネシア政府に送った。クリントン氏の訪問は多角的な目標があった。・・・
原文: A New Era in U.S.-Indonesia Relations
www.glocom.org/opinions/essays/20090321_murphy_new

経済だけではない、金融危機によるアジアの戦略上の危険性

マイケル・グリーン、スティーブン・シュラーゲ (米戦略国際問題研究所(CSIS))

大恐慌以来の最も悪い経済危機に直面して、世界銀行やCIAのアナリスト達は、来年になっても回復の兆しが見られない場合のために、国際的安定へ向けた様々な問題について熟考を始めたところである。その多くは、東ヨーロッパ諸国などの不安定な国家に焦点を当てている。けれども、大恐慌は我々に世界的な経済の低下は大きな力を持つ国にさえ軋轢を与えることを教えた。この前の大きな世界経済の後退は、人類の歴史上最も破壊的な戦争に続いて起こったということは・・・
原文: It's Not Just the Economy, Stupid: Asia's Strategic Dangers from the Financial Crisis
www.glocom.org/opinions/essays/20090326_green_it

情報発信機構とは

「情報発信機構」は、日本をめぐる重要問題について有識者や専門家の意見や討論をグローバルに発信することを使命とする非営利組織。
ウェブ上では情報発信プラットフォーム(www.glocom.org)で、オピニオン、ディベート、ニュースなどを発信、またニュースレターやメールマガジンも定期的に発行。さらにセミナーも毎月開催。

情報発信ニュースレター：編集後記

月報・日本から発信！

月1回発行

発行人・編集長 前田幹博

学校法人国際大学・情報発信機構

949-7277

新潟県南魚沼市国際町777番地

TEL:090-8106-4700

Email:maedam@iuj.ac.jp

3月は上記4つを主要論文としてアップしました。今年の桜は平年より8日ほど早い開花だったようですが、3月27日ワシントンの日本大使館でのフェスティバルには、『史上初の黒人演歌歌手』と言われるジェロが招かれた一方、北朝鮮が不穏な動きをみせる最中、安全保障の概念が再検討されることでしょう。4月もご期待ください。前田幹博情報発信機構編集長